

鹿島砂丘すいかの

平均糖度11°は太鼓判

河見 泰成

車窓からの展望も

捨てがたい水郷風景

アフリカ原産のすいかが中国を経て鹿児島や長崎に伝来したのは、1,579～1,645年の頃だというから、ずいぶん古い話である。すいかと云えばそれ以外には考えられなかった“大和(やまと)すいか”は、このアフリカから伝来の“黒皮すいか”と、明治末期に米国から導入された“アイスクリーム種”の自然交雑から選抜改良されたもので、これを機縁として品種改良が急速に進められたとある。

品種改良は当然に新しい栽培技術の確立を促進させ、麦ワラで防霜し、4月中下旬に播種する直播栽培法から、保温紙やビニールテントを用いるようになって、播種期はさらに早まった。

しかし、すいかの産地が今日のように半恒久化するに至った最大の原因が、接木栽培法の導入にあることをわれわれは見逃してはならない。すなわち、昭和27年頃から導入された“ゆうがお”を台木とする接木栽培法は、本来、すいかの連作障害だと云われる“つる割れ病”を回避するためであったというが、これの成功は、畑地帯すいか産地における輪作年限の短縮とともに、接木自体の増収効果をもたらした。

接木はその後、ゆうがおばかりでなく、かんびょう、かぼちゃなど、それぞれの産地独自の方法として広範に普及するにつれ、すいかの出荷期が早くなり、やがてお馴染みの“小玉すいか”のビニールトンネル栽培が行われ、さらに普通すいかのトンネル早熟栽培、ビニールハウス栽培へと展開したと云われている。

ことしも、すいかがおいしくなる季節がやってきた。店頭には5月上旬に、よく締った小玉すいかが顔をのぞかせていたが、“もうこれ以上は太ろうにも太れません”と云わんばかりにマルマルしたすいかの形容は、いつ見ても愛嬌があり、夏の風物詩でもある。

すいかと云えばこれまでに、北は青森県浪岡のすいか、西では徳島県土柱のすいか、滋賀県大中の湖のすいかの現場を訪れているが、浪岡は山間部の畑地造成であり、土柱すいかは市場町を中心とする吉野川沿いの段丘に開けたもの、また大中の湖のすいかは、干拓地水田

の転換経営であるなど、各産地の態様はそれぞれに興味があって、時どき訪問したときの記憶が浮んで来たりするが、つい目と鼻の先(さき)にありながら、全国屈指の大産地茨城県・鹿島の“砂丘すいか”については、1昨年ピーマン取材で現地を訪れた折“再来”をうながされながら、そのままになっていた。

折も折、5月上旬の或日のテレビの“トピックス”で鹿島すいかの初出荷模様が、しかも“ことしは出来もよくて…”のサブタイトルまでついて放映された。そこでさっそく担当の光吉さんを通じて現地へ連絡をお願いして、5月17日の朝、両国駅から“水郷号”に乗車し鹿島神宮線“鹿島駅”へ向った。

千葉駅を出て佐倉、成田を過ぎ佐原を出て間もなく利根川を渡り、十二橋、潮来(いたこ)あたりに来ると、あたりの眺めはどことなく対岸の千葉県側のそれとはやや違う。いわゆる“水郷地帯”だが、小舟で真孤(まこも)の間に行くのも一興(いっきょう)だろうが、車窓から見おろす水郷風景もまた捨てがたい。

鹿島砂丘すいかの

平均糖度11°は太鼓判

予定より約30分遅れて鹿島駅に到着。さっそく光吉さんの車で神栖地区農業改良普及所へ向う。車窓からの印象で気がついたことが一つある。それは、街道ぞいの様子が3年前に比べ、だいぶ落付が見えるということだ。

車で12、3分行ったあたり、波崎町へ抜ける道を右へはずれたところに、見覚えの普及所が見えた。

“やあどうも暫らくで…。今日は生憎と、すいかの共審会がありやして、担当の者が波崎へ行ったり、ちょうど他の者も出払っておりやすんで…。充分お話が申上げられんかも知れませんが…。と、恰幅(かっぶく)のいい次長の中荻俊雄さんの大きな声が事務所いっばいに響く。そして、“では波崎へ行きますか?”と筆者の意向を訊く光吉さんに中荻さんは“波崎さ行っても1カ所でねえ、あっちこっちに分れてるで…。農協サ行っても判るめえヨ。”と声をかけた。

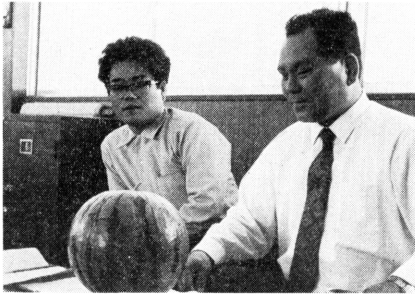
“この辺のすいかは「鹿島砂丘すいか」と申しまして、45年度88.1町、昨年は100町歩栽培されておりまして。本年は若干これより増えると思ひやす。平均1戸当

りの栽培面積…ね。よう…田口君よ。”と中荃さんは留守居役で居合せた田口淑英さんに声をかけた。

“平均1戸当り30aだそうです。収量は4～6トンが標準というところ。すいかの生命とも云うべき糖度は平均11°。この点は太鼓判を捺しますよ。”と、本当に太鼓判を捺すように中荃さんの口調に熱がこもる。

“CDU化成をすいか栽培になぜ導入したか？それは有機質のものを使わねえでも立派にとれると判ったからです。ええ、そのためにはもちろん特産指導所で施肥試験をやって、CDU化成で立派に成績を上げられると判ったからで

す。それ以後、この辺はすいかにしろ、メロンにしろ、ピーマンにしろ、いづれもCDU化成を使っております。”



すいかを前に中荃さんと田口さん

中荃さんが説明した施肥試験の概要は大体次のとおりである。

①施肥量(現物量)1a当りkg標準量

- 有機質主体慣行施用法
油粕に、骨粉4、鶏糞8、尿素燐加安5、燐硝安加里1.5、尿素1、ようりん2、重焼燐1、塩化加里3。
- CDU全層施用法

CDU17、ようりん1、塩化加里0.9

•CDU慣行施用法

CDU14、尿素1、ようりん3.1、塩化加里1.5

②施用法

•有機主体慣行施用法、CDU主体慣行施用法

•CDU全層施用法

③耕種法(概要)

穂木(すいか)播種2月21日、台木(かんびょう)播種3月1日、接木3月10日、定植4月25日、栽植距離2.7m×0.9m(10a当り360株)、ポリマルチ4月～5月(6月以降敷ワラ)、整枝法:子づる3本仕立、ビニールトンネル被覆(定植時～6月20日)、線虫防除:3月15日(殺線虫剤D-D処理)、元肥施用:3月27日、交配:5月20～27日、収穫:6月27日～7月25日。

“農業後継者の問題と、これから農業を継続するのかわからないのか…は、この辺でもだいふ問題のあるところとして、鹿島地区開発計画の進行に伴う動態調査のほか、ことしからは普及所でこれらの点を調査することになりやしたが、ついこの少し上の方に名雪佳さんという生産農家がありやすが、ここでは名雪賢一さんという後継者に恵まれてな、すいかその他を合計して1町余の経営に打込んでおります。ご案内しましょう。”

と、中荃さんの先導で、筆者と光吉さんは車で県道ぞいを3分ほどの距離にある名雪さんのお宅を訪問した。

“ああ、ちょうど出荷してますわ…”と中荃さんの声で車がとまる。見ると、周囲に「鹿島砂丘温室西瓜」「息柘原組合」と印刷された20kg入りの段ボール箱を積載した中小型トラックが門を出るところであった。

<参 考>

※床土づくり(5～7月)…排水がよく、通気性に富むようにつくる。

•前年度の路踏み材料2.4m²当り苦土重焼燐15kgを施し、雨に当てぬよう堆積しておく。

•使用1カ月前に燻じようしておく。

※本圃の土壤消毒(11～12月)…耕起後、ハウス内にトンネルをかけて燻じようし、処理20日後に耕起しガスを抜く。

※育苗準備(1月上旬)…育苗資材はホルマリン100倍液をジョウロで散布し、2～3日ビニールで覆っておく。

•育苗ハウスのビニール張替、洗浄を行う。

※種子(台木・穂木)消毒(1月上旬・略)

※播種(1月上旬)…トロ箱の底をすかし、ワラを敷き、排水をはかり播種する。

•播種したカンピョウは発芽後2日目に9×9cmに移

植する。スイカはカンピョウを移植する時に播く。

•急性イチョウ病の出る場合は、カボチャ台木とする。(品種撰択には注意)

•播種後新聞紙でマルチする。

※接木移植(1月中旬)…カンピョウ台木は(本葉0.5枚)、スイカは播種後7～10日にさし接ぎする。

•接木は暖かいハウス内で行い直ちに移植する。

※接木後の管理(1月中旬)…床温25～28℃にし、密閉し、コモをかける。

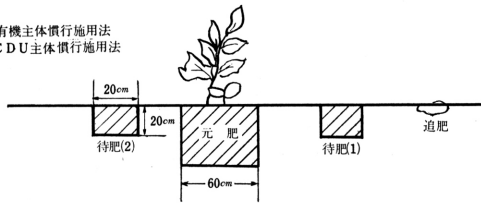
•2日目頃から穂がしおれない程度に、朝夕2～3時間日光に当てる。以後しおれ具合をみて徐々に時間を長く活着を促す。

•換気も床内湿度に応じ徐々に行い、5～6日目頃から普通の管理にもどす。

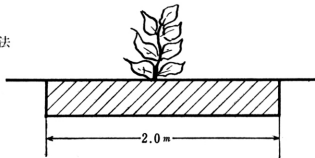
※かん水その他(1月下旬)…かん水は午前中に行い、夕方はやらない。

•接木による密閉期間に病害が出やすいので、薬剤を

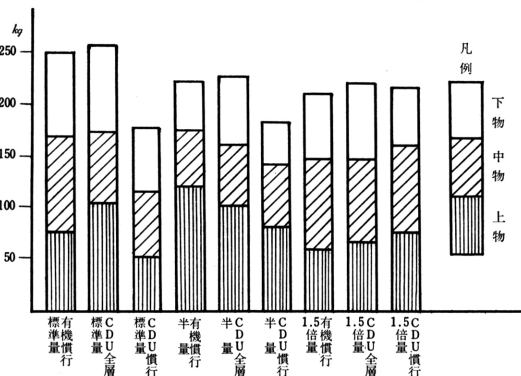
有機主体慣行施用法
CDU主体慣行施用法



CDU全層施用法



収量(重量) 2区合計20株



“いいあんべえだねえ、忙しいとこ悪りいけど、東京からCDU肥料のことでわざわざ見えられたで、お連れしやした。名雪さん…”

こう云いながら入る中茎さんの後に筆者らも続く。門

散布する。

・活着後は床温一昼間25°C前後、夜間16°C前後に管理する。

※本圃施肥(2月上旬)…定植20~30日前に終了する。石灰を全面に散布しpH6.5にする。

・施肥時に薬剤を散布して、タネバエ(ウジ)の発生を防除する。

〈施肥基準〉 10a当り kg

肥料名	肥料分量	元肥	口肥(根肥)	待肥	
				1	2(追肥)
堆肥		500		500	500
油粕	5 2.5 1.5	40		20	20
鶏糞	3 2.5 1.5	40		30	30
CDU化成	15 15 15	20		20	20
硝酸安加里	15 15 12		10		
塩化加里	60	20		10	10
苦土重焼燐	35				
苦土石灰		150~200			

備考: N 20 kg, P₂O₅ 26 kg, K₂O 25 Kg

を入れて左手が名雪さんの住宅。また右手から中庭の中央部は大小さまざまなすいが並んでいる置物兼作業場。そして中庭には後の車に積込むのであろう一ひと山の段ボール箱が積上げてある。(子息さんの賢一さんが、軽く会釈(えしゃく)した。)

“光吉さん現場を見せて貰うべえ…” 中茎さんに促がされて、われわれは中庭の奥にある現場へ。1/3a(100坪)のビニールハウスが、一体幾つ建っているのだろう。などと考えていると、

“こんなかにか約300個のすいかがある。”と、中茎さんの声が響く。当の名雪さんは黙って笑っている。

別掲の写真は現場を引上げるとき撮ったものだが、ハウスは総棟数31棟、すいかは70aというから、21棟になる訳で、残り10棟はピーマン、なすである。性(さが)のいやしい都会人は、さっそく経営の年間収支を憶測してみても、タメ息が出たりする。

CDU化成って肥料は

“時代向きの肥料” だわ

“そうだなあ…。昨年はちょうど花芽ときの凍え込みで、まずかったけども、今年はお蔭さまで陽気もまず



出荷に忙しい。(左手前は賢一さん、奥の右側は名雪さん。)

※畦立(2月上旬, 略)

※鉢上, 摘芯その他(2月中~下旬)…定植前15~20日頃に12cmポリ鉢に鉢取りする。

・本葉4~5枚残し、できるだけ早目に摘芯する。

・定植前7~10日頃に鉢をずらし、温度は14~15°Cくらいにし定植にそなえる。

※定植準備・定植(3月上旬)…定植2~3日前にかん水し、ポリマルチを行い地温を上げておく。

・植付は晴天の午後3時頃までに終え、2重トンネルで保温する。(活着には夜間の地温最低15°C以上が必要である。)

30cm(2本仕立) 10a当り 1,480本植

45cm(3本仕立) 10a当り 888本植

60cm(4本仕立) 10a当り 740本植

根を土に密着させるため、株元に少量かん水する。

※保温・換起(3月中旬)…気温は昼間25~28°Cとし、30°C以上にならないよう換気する。

まず、昨年より悪いくたあなかっぺ？初出荷は5月10日、まあ順調というところだ。

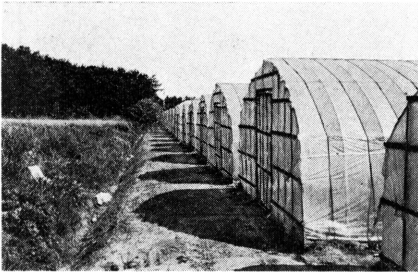
と、名雪さんの頬(ほお)に一瞬笑いが浮かんだ。この日の爽快な空のように…。

そして、“すいか用肥料としてCDU化成555を、どうお考えですか？”という質問に対して名雪さんはキッパリ次のように云いきった。

“いいな、とてもいい肥料だな…。おらは…、42年から使いはじめてから、この肥料一方だわなあ…。おみやげに1個差上げっから、CDUで作ったすいか、どんなにうめえか、試してみて下せえ…”。

“第一、この肥料は、やり過ぎても失敗する心配が無え…、安心してやれるってえ訳だっぺえ。それに、この頃のように手不足になっちゃ、本当のところ、肥料を呉れるのにそうそう手間ひま掛ける訳になくなったよ。その点から云って、この肥料は“時代向きの肥料”ってえことになっかな？”

“すいか栽培で何が一番むずかしいって？そう訊かれても、いちげいに云う訳にゃいかねえよ。そ



31棟のハウス群

れにしても、昔とちがって、肥料に気を使わねえだけでもずい分と気が楽ってえもんだよ、記者さん…”。

CDU化成の特性を浮彫りにし、云い得て誠に妙と云

うべきではないだろうか？

帰りぎわ名雪さんに頂戴した“小玉すいか”の後日談をご披露しておこう。

持ち帰った翌日の午後、家内中でその“小玉すいか”を割ったのだそう。実家に来ていた娘と孫(3才の女子)に食べさせたいという老妻の親心。

そのとき、自分の母親たちのすいかの食べ振りを見ていた孫が云ったそうである。

“ママ、ママはどうして白いとこまで食べないの？このすいか、とってもおいしいんだもん、白いとこまで食べちゃった。！”



ハウスの前で (左は名雪さん、右は光吉さん)

あとがき ことしは、田植はほぼ順調に行っただけです。田植時につきものよう

な極部的な豪雨にも見舞われずに済んだようです。

問題はこれからで、関東以西の旱天続きの予想に反し、関東以北は昨年以上の寒冷な気象に見舞われるかも知れず、場合によっては相当の冷害をも予想せねばなるまいと云われております。

6月号をお送り致します。(K生)

・夜間は最低10°C以上に保温につとめる。

※整枝、側芽かき、敷ワラ(3月中旬)…・仕立本数に応じ、よく揃った子づるを伸し、他を早目につむ。

・側芽は早目に除く、(着果後は残し、葉数を確保する。)

・つるが伸びるに従って2~3回に分け敷ワラする。

※つるくばり(3月下旬)…・二重トンネル内で開花、着果をはかるため、つるを引き、つるの配置を行う。

※人工授粉、かん水、換気(4月上旬)…・13~15節を目標に、午前8~10時頃に授粉を行う。(小玉は6~7節からつける。)

草勢がよすぎる場合は、目標位置に着果しにくいので、元成りを着けて着果を安定させる。

・開花期は、着果を安定させるため、かん水は控え目とする。

・温度は25~28°Cを保つようにする。

※摘果、しるし立て、玉なおし(4月中~下旬)…・着果が確実にになったら目標個数を残し、摘果する。

・5cmくらいに玉が肥大したら着果時期を明示する。

・野球のボール大になったら敷ワラの上に正座させ変形を防ぐ。

※かん水、病虫害防除(4月中~下旬)…・玉の肥大時には土壤水分の状況に応じて行う。(乾湿の差が大きいと裂果や変形するので、土壤水分を一定にするようにする。)

・病害が出やすいから、薬剤散布を重点的に行う。

※玉返し、収穫(5月上~中旬)…・収穫10日前から玉を横にし、尻まわりの部分を色づけする。

・収穫は大型種 交配後 40~45日

〃 小型種 〃 35~40日